IR CLIP

IRクリップ
有望企業をPick Up

イーソル

（証券コード　東証マザーズ　4420）

プラットフォーム技術を持ち
ＩｏＴ時代をリード
～自動車向けなどの
組込みソフトウエアに強み

幅広い領域の製品に組込みソフトウエアを供給する。

全てのモノとモノがインターネットを介してつながるＩｏＴの時代が着実に構築されてきた。私たちの生活に便利さをプラスする一方、人手不足が深刻な国内の産業においては、省力化への貢献が期待される。中でも、安全性の向上や運転手不足への対応を背景に、自動車における自動運転技術の実用化はニーズが高い分野の1つだ。

自動車や車載機器のメーカーばかりではなく、通信関連企業、ソフトウエア開発企業など、業種の垣根を越えた開発体制が組まれるが、その中の1社がイーソルだ。自動車向けを含む各種組込みソフトウエアの開発を主力としており、自動運転技術の開発に関しても独自のソフトウエア開発力で貢献している。また、仕様などの標準化を通じ業界全体が高騰に悩む開発費用の削減につなげる取り組みも展開する。

2018年10月には株式を新規上場し、社名や展開事業の認知度向上を目指す。

メーカーの要求に応える

イーソルの主力事業、「組込みソフトウエア事業」は、売上の9割を占める。さらに、収益性が高い「組込みソフトウエア製品」と、安定性を誇る「エンジニアリングサービス」に分かれ、それぞれ2対8の売上を構成する。

特に特徴的なのは、エンジニアリングだ。顧客のニーズに応じ、プラットフォーム（PF）の制作から手掛ける技術を持つ。

ＩｏＴ機器において、ＰＦはなくてはならないものだ。例えば、オフィスソフトでメジャーな「Ｗｏｒｄ」と「Ｅｘｃｅｌ」は、入力した文字などはコピー＆ペーストでき、互換する。これも、「Ｗｉｎｄｏｗｓ」というベースとなるＰＦがあるから。Ｗｏｒｄなど個々のアプリケーション（アプリ）だけでは活用が難しい。

「ソフト開発会社の多くは、ＰＦ上で文字を表示する、などの特定の機能を持つアプリをメーカーの仕様書通りにつくっているのに対し、私たちは、ＰＦを自社で制作しています。これができる企業は世界でもわずかです」（長谷川勝敏・代表取締役社長）

さらに、テレビやパソコンなどの機器により、使う半導体が異なる。そのため、半導体ごとにアプリとＰＦをつなぐ、というプロセスも必要となる。

「顧客が新たなアプリをつくる際、ＰＦに対して必要な機能の要求も出ます。これを私たちが受け、その実現までを任せていただけます。単に仕様書に沿ってつくるのではなく、頂いた要求を満たす開発をできる点が、他にはない特徴です」（長谷川社長）

これまでに、カーナビゲーションシステムやデジタルカメラ、ゲーム機などのコンシューマー向け商品から、音響機器、理化学機器、航空宇宙など、産業を横断し、幅広くイーソルの組込みソフトウエアが採用されている。

高い開発力を活かし、今後の成長の核に据えるのが、自動車マーケットだ。自動運転技術の実用化が待たれる一方、現在の自動車にも衝突防止や自動駐車などでＩＴ技術が組込まれ、半導体やセンサーも多用。自動車そのものにＰＦを搭載するニーズが高いからだ。

07年から「ＡＵＴＯＳＡＲ」という、自動車業界のグローバル開発パートナーシップに参加。車載ソフトの基本的な仕様の標準化を図り、自動運転技術やコネクテッドカーなどの実現と普及を目指す。イーソルは16年よりＡＵＴＯＳＡＲにおいて、最上位の「コア・パートナー」に次ぐ「プレミアム・パートナー」として活動。ＡＵＴＯＳＡＲの仕様を策定できるポジションで、実際にコネクテッドカーの仕様を欧州で策定した実績を持つ。

更にＮＥＤＯ（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の革新的ＡＩエッジコンピューティング技術の開発プロジェクトに参画。自動運転車実用化も見据える目標の1つだ。

センシングは防災に

「センシングソリューション事業」では、30年以上にわたり、「指定伝票発行用車載プリンタ」を展開する。冷菓や畜産品など、納品に出向いたその場で小売店が仕入数を決め、伝票を即時発行する場面でのニーズが根強い。その他にも、「ハンディターミナルＰＯＳシステム」などの商品がある。

「実は、これらは屋外でも使えるようにつくられており、振動、ほこり、水、低温などに耐える『耐環境技術』を蓄積してきました。ですので、色々なセンサーと組み合わせて防災に役立てる、など、この技術を広く提案している最中です」（長谷川社長）

山の斜面にセンサーを設置し常時監視するシステムや、農畜産業、水産業などで業務の効率化につながる仕組みの開発を急ぐ。

イーソルでは、「『楽しいチャレンジ』を生きる」をコアスピリットに掲げる。そのチャレンジは、きっと私たちの生活を安全で便利なものにしてくれるだろう。 B

社名	イーソル株式会社
所在地	東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー
代表者	代表取締役社長　長谷川勝敏
売上高	2017年12月期　75億46百万円
	2018年12月期　87億52百万円
	2019年12月期　97億80百万円（予想）
経常利益	2017年12月期　4億45百万円
	2018年12月期　6億87百万円
	2019年12月期　8億00百万円（予想）
売買単位	100株
主な事業内容	組込みソフトウエア事業 センシングソリューション事業

主な沿革

1975年	エルグ株式会社を設立 制御系ソフトウエア開発受託事業（現ソリューションエンジニアリング事業部）を開始
1984年	独自プラットフォームの販売を開始
1991年	物流関連ビジネス展開のため流通システム事業部（現センシングデバイス事業部）を設立
2001年	商号をイーソル株式会社に変更
2014年	農場管理システムを開発しＩｏＴ事業を開始 現センシングデバイス事業部にてセンサネットワーク関連ビジネスを開始
2015年	開発ツール販売などを目的として子会社イーソルトリニティ株式会社（現連結子会社）を設立
2016年	車載基盤ソフトウエア開発を目的として株式会社オーパス（現持分法適用関連会社）を設立
2018年	欧州におけるソフトウエア製商品販売などを目的としてフランスにeSOL Europe S.A.S.（現連結子会社）を設立 東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場